

II 開発教育指導者研修（実践編）第1回

■ 開催概要

- ◆ 日 時：2016年6月11日（土）11:00～17:17、12（日）10:00～15:17
- ◆ 場 所：JICA 中部 なごや地球ひろば2階 セミナールームA
- ◆ 参加者数：[1日目] 受講者40名、JICA7名、NIED6名、オブザーバー1名 合計54名
[2日目] 受講者39名、JICA3名、NIED6名、オブザーバー1名 合計49名
- ◆ ファシリテーター：（特活）NIED・国際理解教育センター 伊沢令子氏

■ 第1回のねらい

★ 開発教育・国際理解教育の目的、内容、方法を体験的に理解する

- ① 研修の全体像を理解し、各自の参加の目的を振り返り、共に学び合う仲間同士知り合う。
- ② グローバル化した世界の現状と課題を共有し、自分と世界、自分と社会課題とのつながりに気づく。
- ③ 世界共通のビジョンSDGsに関する理解を深め、開発教育・国際理解教育の必要性を確認する。

■ プログラムの内容

● セッション1「研修オリエンテーションとアイスブレイキング」 6/11 13:00-14:12

1. 主催者挨拶／本研修の目的および概要説明／関わるスタッフの紹介 13:00-[13]

- ◇ JICA 中部 倉坪職員が開会を宣言し、続いて JICA 中部市民参加協力課駒崎が主催者を代表して挨拶し、JICA の活動、開発教育の位置づけ、研修を通じて受講者に期待することなどについて伝えた。
- ◇ JICA 中部のスタッフ、各県市の国際協力推進員、NIED のスタッフがそれぞれ自己紹介を行った。

2. 1年間の研修の流れとポイント紹介 13:13-[18]

- ◇ JICA 倉坪職員が2つの研修の位置づけと目的・内容、および、JICA 中部の開発教育・国際理解教育の支援の内容とその活用方法について説明した。
- ◇ 本研修の本旨である開発教育・国際理解教育の概念、本研修の参加型での進め方について、レジュメを基にファシリテーターが説明し、確認した。



3. アイスブレイキング ～仲間探し 13:31-[18]

- ◇ ファシリテーターが出す質問に対して、会場を立ち歩き同じ回答の人を探してグループ（仲間）になった。その後、仲間の種類を全体で確認した。

＜ファシリテーターが出した質問＞

- ・住んでいる市 ・所属区分
- ・今の仕事の継続年数（短い順に並んで輪になるよう並ぶ）
- ・白いご飯の上に乗せて食べると一番美味しいと思うもの



- ◇ 質問は、簡単に答えられるものから始め、徐々に個人的な情報を問うものへと深めたことを振り返り、アイスブレイキングの趣旨と工夫について、ファシリテーターが説明した。
- ◇ ファシリテーターコメント…アイスブレイキングとは、安心して参加できる場にするためのウォーミングアップ。仕事や活動の経験年数が違って対等な立場で関わり、好みが違って否定せず受け容れ合って研修へ参加して欲しい。「対等な立場」とは、どんなに違っていても否定排除されることがなく、誰にでも発言権があり、少数派の意見も大切にされること。

3. 私たちと世界のつながり ～データで見るわたしと世界のつながり 14:40-[20]

- ◇ グループに以下 5 種類の資料を配付。1 人 1 種類を担当し、「何についての資料か」「分かること・言えること」「最も印象に残ったこと」という視点で読み、ポイントとなることをグループ内で発表した。

＜資料＞ ① 食：日本の自給率、世界の自給率
 ② 資源・エネルギー：電気・エネルギーにまつわる情報
 ③ 水：日本で使用している水の量、日本のバーチャルウォーター総輸入量と品目別割合
 ④ ヒト：海外に住む日本人の割合、国際結婚、外国人労働者
 ⑤ モノ：私たちが消費しているモノと児童労働、私たちが消費しているモノと環境破壊

- ◇ ファシリテーターコメント…一つの資料を担当して読むことで責任感が生まれ、学びの主体性が高まる。

- 休憩 - 15:00-[10]

4. グループ替え、一言自己紹介 15:10-[12]

- ◇ ジャンケンで勝った人、負けた人が前後のグループに移動し、グループ替えを行った。
- ◇ グループ内で「自分を野菜に例えると」というテーマで自己紹介を行った。
- ◇ ファシリテーターコメント…人は多面的にできている。なるべく多面的に知り合うことによって、理解の幅を広げていこう。国に対しても同じことが言える。
- ◇ ファシリテーターコメント…人は、①今まで考えてみたことがないようなことを考えたとき（野菜に例える）、②自分とはまったく異なる意見と出会ったとき（他者の意見を知る）に、気づきが生まれると言われている。国際理解教育・開発教育では、内発的な理解を大切にしている。自分の中の気づきは学びとして残り、行動につながりやすい。

5. グローバル化した世界と日本が抱える課題 15:22-[50]

- ◇ グローバル化した社会について、各自 1 項目 1 枚の付せん紙に「世界の課題と思うこと」「日本の課題と思うこと」をそれぞれ 6 枚ずつ書き出した。
- ◇ 書き出した付箋を、カード式整理法（KJ法）により分類・整理を行った。

【「グローバル化した世界と日本が抱える課題」分類・整理の主な項目】

＜世界＞	＜日本＞
◇人口	◇少子高齢化
◇貧困	◇過疎化
◇経済格差	◇格差（経済・教育）
◇児童労働	◇子どもの環境
◇人種の違いによる差別	◇言葉の壁
◇価値観の違いによる差別	◇情報の選択
◇情報	◇人の流れ
◇移民	◇日本文化の低迷
◇迫害	◇マナー
◇宗教	◇政治
◇戦争・紛争	◇外交と領土
◇国際的犯罪の増加	◇国のお金
◇環境	◇原子力
◇資源の不足・過剰な摂取	◇ゴミ問題
◇農業	◇食糧自給率
◇医療・保健	◇競争
◇水	◇労働環境
◇食	◇IT・セキュリティ
◇競争	
◇ジェンダー	
◇世界の均一化	

【「グローバル化した世界と日本が抱える課題」分類・整理成果例】



- ◇ 「グローバル化の恩恵」から「世界と日本が抱える課題」までを振り返り、作業を通して分かったこと、気づいたことをグループで5つの文章にまとめ、書き出した。
- ◇ カード式整理法（KJ法）でまとめた模造紙と「分かったこと、気づいたこと」を回し読みし、「分かったこと、気づいたこと」について共感したものに印をつけた。



【「グローバル化した社会を振り返って分かること・言えること」成果例】

- ◇日本と世界の問題は共通している
- ◇世界の課題は日本の課題、日本の課題は世界の課題
- ◇輸出入の増加→貧富の差
- ◇課題が課題を引き起こす
- ◇貧困から教育格差、衛生などの環境の問題につながっている（負の連鎖）
- ◇グローバル化が差別や児童労働などの課題も生み出している
- ◇ネット社会のメリット、デメリット
- ◇コミュニケーション不足→紛争につながる
- ◇情報の選別の重要性
- ◇教育の大切さ
- ◇他者理解（教育）で問題はほぼ解決できる
- ◇いい面を裏返すと悪い面になる
- ◇日本では人口減少⇔世界では人口増加
- ◇日本では難民問題、人種差別などの問題が深刻に捉えられていない
- ◇世界の問題を日本の問題と捉えていないのはなぜだろう
- ◇世界の問題を私たちが気づけていない
- ◇食糧があるのに働きすぎの日本は幸せか？
- ◇解決策が一人では難しい！でも私たちにできることはある！

- ◇ ファシリテーターコメント…開発教育・国際理解教育は、解決が必要だと思うものは全て扱っていく教育。「こんなことが問題だ」と思うことは、全てテーマになり得る。課題は何かを知り、原因を探り、自分に何ができるかを考える場と方法を提供する。

6. 感想の共有 16:12-[03]

- ◇ ここまで参加型学習を体験した感想を数人に聞き、全体で共有した。

- 休憩 - 16:15-[08]

7. グループ替え、一言自己紹介 16:23-[03]

- ◇ ファシリテーターが1～11までの番号を振り、同じ番号の人同士でグループになり、指定のテーブルに着席した。
- ◇ グループ内で「○○な誰々です」という自己紹介を行った。

8. データで見る今日の地球と日本 16:26-[06]

- ◇ 資料『地球の数字』『日本の数字』を配付。各自読み込んだ。
- ◇ ファシリテーターコメント…この課題を放置したままでは私たちの社会は持続可能ではないと世界は認識し、共通して取り組んでいくべき課題について、国連を中心に全ての国連加盟国は合意している。人権、環境が守られるよりよい社会にシフトしていくために、教育が課題解決の一翼を担っている。

● セッション3 「持続可能な未来のための世界共通ビジョン＝SDGs」 6/11 16:32-17:17

1. SDGs とは何か？ ～MDGs から SDGs へ 16:32-[07]

- ◇ 冊子『私たちが目指す世界』を配付。MDGs、SDGsの概要をファシリテーターからレクチャーした。

2. 「誰も取り残さない・世界を変革する」SDGs17のゴール ～11のテーマでワールド・カフェ 16:39-[26]

- ◇ SDGsをより理解するために、冊子に掲載されている目標1～16を11のグループに割り振った。

<グループに割り振られたテーマ>

- ① 目標1「貧困をなくすこと」
- ② 目標5「ジェンダーの平等」
- ③ 目標6「清潔な水と衛生」
- ④ 目標7「再生可能エネルギー」
- ⑤ 目標13「気候変動への対策」
- ⑥ 目標8「適切な良い仕事と経済成長」
- ⑦ 目標10「不平等をなくす」
- ⑧ 目標11「持続可能なまちと地域社会」
- ⑨ 目標12「責任を持って消費すること」
- ⑩ 目標14「海のいのちを守ること」・目標15「陸のいのちを守ること」
- ⑪ 目標16「平和で公正な社会」

◇次の手順で、共有を行った。メンバー替えは2回行った。

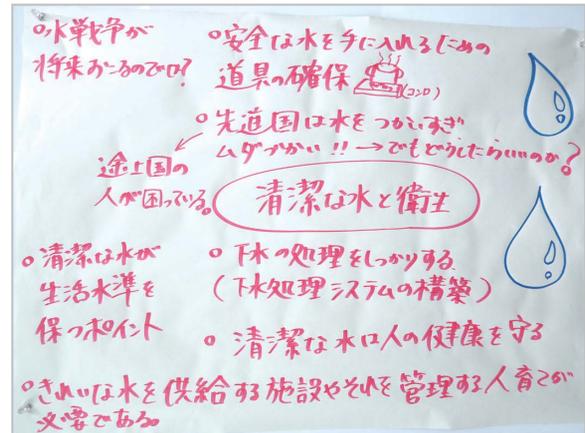
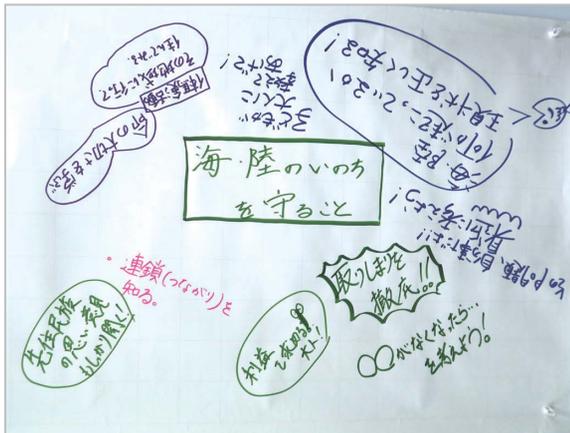
＜共有の手順＞

- ① 自分のグループの担当目標を個人で読む。
- ② 模造紙を机の中央に広げ、感想や意見を自由に書き出す。
- ③ グループで1人、マスターを決める。マスター以外のメンバーは他のグループに移動、マスターはその場に残る。
- ④ マスターを中心に、前のグループでの話し合いの内容を共有。
- ⑤ 新しいメンバーで意見交換をし、新たに出た意見を模造紙に書き加える。



◇より理解を深めるために、各自で冊子を読むようファシリテーターから依頼した。

【「11のテーマでワールド・カフェ」成果例】



3. 1日目のふりかえり 17:05-[07]

◇1日目を振り返り、気づきや発見、感想を、グループの中で一言ずつ発表した。

4. 事務連絡 17:12-[05]

- ◇記録および成果物・板書画像の提供と共有について、事務局より連絡を行った。
- ◇JICA 中部 倉坪職員より、配架物 (JICA 発行冊子、イベント情報等) について、海外研修報告書閲覧について、承諾書について、懇親会についての案内・連絡を行った。

★ 17:17 終了

● JICA TIME 6/12 10:00-10:11

1. JICA TIME 10:00-[11]

◇JICA 中部 倉坪職員が、2日目開始にあたっての挨拶を行った後、JICA の開発教育支援について、冊子『JICA 中部 開発教育・国際理解教育支援メニュー』を基に説明を行った。



● セッション4 「SDGs ゴール1:貧困をなくすこと」 6/12 10:11-14:20

1. 一言自己紹介、1日目のふりかえり 10:05-[17]

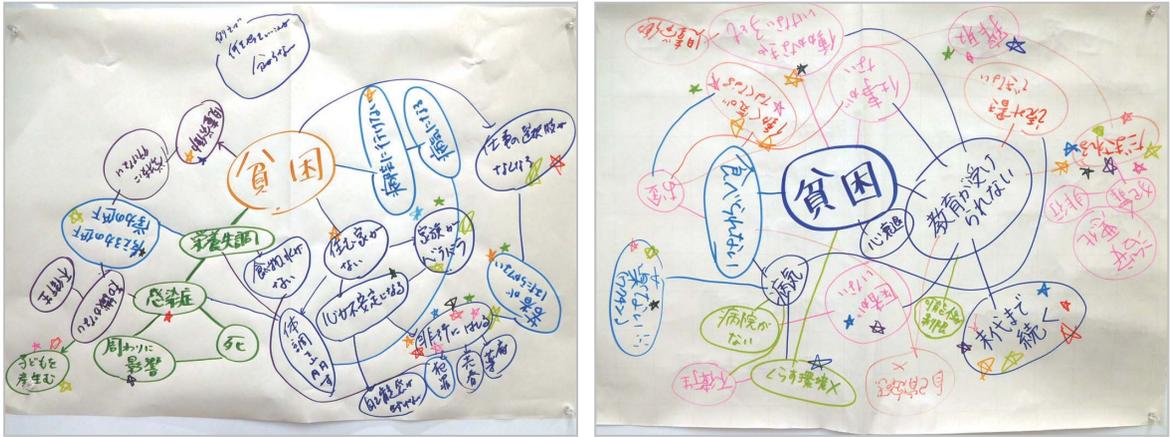
- ◇グループ内で「もしもタイムマシンがあったなら」というテーマで自己紹介を行った。
- ◇1日目の流れと内容をファシリテーターが説明し、開発教育・国際理解教育の目的と方法、SDGs の目標を確認した。
- ◇ファシリテーターコメント…MDGs が途上国の目標であったのに対し、SDGs は先進国も含めた私たちの目標である。持続可能な社会の構築は、人権と環境が柱となる。貧困状態の中では環境問題は考えられない。2日目の前半は、貧困解決に焦点を置く。

2. 貧困の原因 -----

2-1. 貧困に陥るとどうなるのか 10:22-[14]

- ◇ 貧困になると日常生活で具体的にどんなことが起きるか、意見を出し合い、模造紙に書き出した。
- ◇ 他グループの模造紙を自由に見て回る「ギャラリー方式」で意見を読み、共感したものに★印をつけた。
- ◇ 他グループの意見の中で、共有したいと思ったものをグループ内で発表し、模造紙に書き加えた。

【「貧困に陥るとどうなるか」成果例】



2-2. 貧困とは何か、自分たちの言葉で文章化 10:36-[16]

- ◇ グループで、貧困についてのキーワードが出ている模造紙を見て、貧困とは何かを100字程度の文章にまとめた。

【「貧困とは何か」成果例】

◇ 学校に行けないから知識がなく、仕事に就けないからお金がない。そのため衣食住が満たされない。それによって心も体も健康でない状態になる。そして、全てが連鎖して貧困から抜け出せず、自分の子どもも貧困になるという悪循環が起る。

◇ 心も身体も満たされず、物質的にも貧しく、制度や権利が守られず、生活環境が整わずに生きることに精一杯で、教育や医療まで行きつかないため、負の連鎖を断ち切ることが難しい蟻地獄のようなもの。

◇ 貧困とは、経済的な格差から始まる悪循環である。食べ物が無いなど、人としての基本的な生活ができないことに加え、医療や教育などが十分に受けられないため、そこから抜け出すことができない状況であること。

- ◇ 資料『1日1.25ドル、年収450ドル以下＝絶対的貧困という暮らし』を配付。個人で読み、貧困とはどのような状況を言うのかを確認した。

3. 貧困の原因 -----

3-1. フォトランゲージ ～写真の人々はなぜ飢えている？ 10:52-[12]

- ◇ グループに5種類の写真を配付。1人1種類の写真を担当し、写真の人はなぜ飢えているのかの理由を想像し、グループ内で発表した。
- ◇ 写真裏面の解説を読み、貧困の現状をグループ内で共有した。



3-2. 世界の貧困の原因 vs 日本の貧困の原因 11:04-[18]

- ◇ これまでのワークを振り返り、世界と日本の貧困の原因を対比表で考え、全体で共有した。

【「世界と日本の貧困の原因」成果例】

<世界の貧困の原因>

◇ 障害者差別 ◇ 宗教差別 ◇ ジェンダー ◇ 低賃金 ◇ 仕事に就いていない ◇ 労働先がない ◇ 孤児 ◇ 幼児婚
 ◇ 子どもが多い ◇ 教育不足 ◇ 気候 ◇ 自然災害 ◇ 環境破壊 ◇ 病気・感染症 ◇ 作物の育たない土地
 ◇ 外的要因（戦争・ゲリラ） ◇ 戦後処理の不備 ◇ インフラ整備がない ◇ ライフラインの支援のなさ ◇ 伝統、民族、文化を無視した政策

<日本の貧困の原因>

- ◇障害による生活力不足 ◇外国人の言葉の壁 ◇失業 ◇非正規雇用 ◇教育格差 ◇ドロップアウトすると社会に戻りにくい ◇欲求が高すぎて就業が難しい ◇一発勝負の就職制度 ◇社会の制度を利用できていない
- ◇核家族化 ◇つながりの希薄 ◇子どもを育てにくい環境（待機児童など） ◇親に余裕がない ◇親による虐待 ◇親の精神疾患→就業できない ◇自己肯定感が低い ◇高齢化 ◇政策の失敗

- ◇ ファシリテーターコメント…課題解決のためには、その課題が生まれる原因を把握することが大切。原因が分かれば、それを取り除くための具体策を考えることができ、解決には何が必要かを見出すことにつながる。

4. 貿易ゲームと構造的貧困 11:22-[61]

- ◇ くじ引きをし、引いた番号のテーブルに移動し、全体を7グループに分けた。
- ◇ 構造的な不公平を体験する「貿易ゲーム」を行った。

<貿易ゲームのルール>

- ・グループに条件を配付。その条件の通りに作業を進める。
- ・与えられたものを使って、できるだけたくさんのお金を儲ける事が目的。
- ・決められた製品を作り、世界銀行に収めることによってお金が得られる。
- ・製品の代金は口座に振り込まれる。現金でのやりとりはしない。

<1グループだけに与えられた極秘情報>

- ・花の形をしたシールを持っていたグループが1つだけある。そのシールがあれば、製品を一つ1万円で買い取ってくれる。

- ◇ 各グループの残金から純利益を計算し、結果を全体で確認した。
- ◇ ゲームを体験した感想を出し合った。
- ◇ 各グループの条件『各グループの袋の中に入っていたものリスト』を配付。全員で共有した。
- ◇ ゲームの趣旨と世界の貿易の現実について、ファシリテーターから説明した。



<ゲームの趣旨と世界の貿易の現状>

- ・ハサミ=技術、紙=資源、シール=情報を表している。ハサミやシールを持っていたのは1部のグループだけ。
- ・異なる条件で自由貿易をすると、格差が生まれてしまう。その格差を開かせ、持続させるのが「構造的貧困」。

5. ふりかえり 12:23-[07]

- ◇ 近くの人とペアになり、午前中の感想を伝え合った。

- 休憩 - 12:30-[61]

6. グループ替え、一言自己紹介 13:31-[06]

- ◇ ジャンケンで勝った人、負けた人が左右のグループに移動し、グループ替えを行った。
- ◇ グループ内で「自分が得意なことと苦手なこと」というテーマで自己紹介を行った。

7. 貧困解決に必要なもの -----

7-1. ムハンマドさん一家を救え！？～貧困から抜け出すためのアイデア 13:37-[29]

- ◇ 資料『ムハンマドさん一家の様子』を読み、困難な状況から抜け出すためのアイデアをグループで出し合った。

【「貧困から抜け出すためのアイデア」成果例】

- ◇作る物を小麦から乾燥地帯でも強い芋などの農作物に少しずつ変えていく。
- ◇周りの小麦農家と協力して組合を作り、設備投資をして、パンや小麦粉を作る。
- ◇村でコミュニティを作って助け合う ◇パン屋を立ち上げる
- ◇小麦を高く買ってくれるところを探す ◇近くにNGOがあれば、SNSを通じて資金を集める
- ◇知人からお金を借りる ◇低学年の子の面倒を見るなど、学校のためになることをして学費免除

- ◇ 資料『ムハンマドさん一家と村の貧困を救った お母さんの技術とマイクロクレジット』『マイクロクレジットとは』を読み、実際の貧困解決の方法を知った。
- ◇ ファシリテーターコメント…ひとたび貧困に陥ると、その悪循環から自力で抜け出すのは難しい。外からの介入は、貧困から脱する糸口となり得る。

7-2. 貧困解決に必要なもの・役立つこと 14:06-[14]

- ◇ これまでの作業をふりかえり、貧困解決に必要なもの・役立つことを模造紙にリストアップした。
- ◇ 模造紙を回し読みし、共感した意見に★印をつけた。



【「貧困解決に必要なもの・役立つこと」成果例】

- ◇知恵 ◇アイデア ◇技術 ◇先進国への教育 ◇他人事をなくす ◇想像力
- ◇仲間 ◇コミュニティ ◇地域協力 ◇ネットワーク ◇助け合い ◇相互理解 ◇信頼
- ◇人権尊重 ◇子どもは大事にする ◇母子教育 ◇女性の社会進出 ◇男性の協力
- ◇解決のための知識を知る場所 ◇得意分野を活かせる場所 ◇公平で真の情報
- ◇富の分配 ◇平等 ◇差別がない ◇良心（お金を持っている人が助ける） ◇思いやり
- ◇自分たちで収入を得られる仕組み作り ◇顧客 ◇自尊心 ◇成功体験 ◇生きる希望
- ◇NPO・NGO の支援 ◇企業の協力（CSR） ◇政府の支援 ◇ライフラインの整備
- ◇制度（学費、医療費の軽減） ◇社会福祉 ◇継続力 ◇あきらめない気持ち ◇周囲の理解
- ◇健康第一 ◇質素に生きる心 ◇平和 ◇自然との調和

● セッション5 「持続可能なよりよい未来と開発教育・国際理解教育の必要性」 6/12 14:20-15:17

1. 豊かさとは何か -----

1-1. 豊かさを感じる時・幸せを感じる時 14:20-[12]

- ◇ 世界の割合を、ファシリテーターから説明した。

- <世界の割合>
- 2：8 先進国と途上国の割合
- 8：2 世界全体の富の割合（2割の人が8割の富を独占し、8割の人が2割の富を分け合っている）
- 7：3 世界のエネルギー消費（2割の人が7割を消費している）

- ◇ ファシリテーターコメント…構造的貧困が先進国によって決められているのであれば、私たちもその一員。貧困解決を考える前に、自分たちの価値観をふりかえり、豊かさとは何かを考えよう。
- ◇ A4用紙に、「自分が豊かと感じること」5つ、「幸せを感じる時」5つを個人で書き出し、そこから分かったこと、気づいたことをグループで発表し合った。

1-2. ブータンの幸福度指標 14:32-[10]

- ◇ 資料『ブータンの国民総幸福度GNH』を配付した。GNHがどのような指標で判断されているかを確認した。

1-3. フリードマンによる「豊かさ」の8つの指標 14:42-[12]

- ◇ お金以外で、何が豊かさの指標になり得るのか、グループで考えた。
- ◇ 資料『フリードマンとセンの豊かさと貧困と開発の定義』『フリードマンによる「豊かさ」の8つの条件』を読み、貧困の捉え方、豊かさの捉え方を共有した。
- ◇ 世界における日本のGNP順位、自殺率順位、虐待などのデータを紹介し、日本は豊かと言えるのか、ファシリテーターから問いかけた。



2. 持続可能な未来の開発目標 SDGs と教育 14:54-[16]

- ◇ 現状と目標とのギャップを埋めるために①必要な情報、②育てたい価値観、③身につけるとよいスキルを、個人でA4用紙に書き出した。

- ◇ 書き出したリストと共に、開発教育・国際理解教育の担い手として私がしようと思うことを、グループ内で発表し合った。
- ◇ ファシリテーターコメント…課題のある社会を変えるには、行動変容が必要である。行動を変えるためには、価値観を変える必要がある。自分を含めて、どのような価値観を育てていけば全ての人が豊に暮らせる社会を作ることができるのかを考えていこう。

3. ふりかえり 15:10-[06]

- ◇第1回目の研修の感想を共有した。

4. 事務連絡 15:15-[02]

- ◇ Eメール連絡体制、メーリングリストの開設、次回宿泊、次回からの懇親会について、事務局が伝えた。
- ◇ JICA 中部 倉坪職員が、JICA 訪問プログラムについて告知した。

★ 15:17 終了

— 研修で使用した教材の出典等一覧 —

- ・『データで見るわたしと世界のつながり「食」』…愛知県国際交流協会「世界の国を知る・世界の国から学ぶ 私たちの地球と未来 ニューゼaland編」
- ・『データで見るわたしと世界のつながり「資源・エネルギー」』…経済産業省「エネルギー白書」/資源エネルギー庁統計/電気事業連合会統計資料/外務省ホームページ/「はじめよう、未来へのアクション!地球教室 基礎編」朝日新聞環境教育プロジェクト「地球教室」教材開発委員会/浦本典子著「あなたの暮らしが世界を変える」山と溪谷社/佐伯平二著「環境がわかる絵本」山と溪谷社
- ・『データで見るわたしと世界のつながり「水」』『データで見るわたしと世界のつながり「ヒト」』…JICA 地球ひろば「国際理解教育実践資料集-世界を知ろう!考えよう!」
- ・『データで見るわたしと世界のつながり「モノ」』…どこからどこへ研究会著「地球買いモノ白書」2003年/ジェシカ・ウィリアムズ著「世界を見る目が変わる50の事実」2005年をベースに、統計データは極力最新年度に置き換え
- ・『地球の数字』…ワールドウォッチ研究所「地球白書2008-2009」/同「地球白書2009-2010」ワールドウォッチジャパン
- ・『日本の数字』…池上彰、協力・池田香代子「日本がもし100人の村だったら」マガジンハウス(2009年)
- ・子ども・若者向けのハンドブック『私たちが目指す世界 子どものための「持続可能な開発目標」』日本語版
- ・『1日1.25ドル、年収450ドル以下=絶対的貧困という暮らし』…パメラ・パッサマン、アンドレア・ドイル共著(ERIC訳)「地球のみかた-地球について学ぶカリキュラム」を参考にNIED作成/世界銀行 PovalNet(原典)/イエズス会社会司牧センターウェブサイト「経済のグローバル化と構造的罪」(<http://www.jesuitsocialcenter-tokyo.com>)
- ・フォトランゲージ~写真の人々はなぜ飢えている?…WORLD VISION AUSTRALIA「PROFILES OF HUNGER」1995年
- ・貿易ゲーム:各グループの袋の中に入っていたものリスト…開発教育国際理解教育アクションプラン研究会「教室から地球へ 開発教育・国際理解教育虎の巻」2006年(原典:開発教育推進セミナー「新しい開発教育のすすめ方-地球市民を育てる現場から」1999年)
- ・『ムハンマドさん一家の様子』『ムハンマドさん一家と村の貧困を救ったお母さんの技術とマイクロクレジット』『マイクロクレジットとは』…公益財団法人愛知県国際交流協会「世界の国を知る・世界の国から学ぶ 私たちの地球と未来 モロッコ編」
- ・『ブータンの国民総幸福度 GNH』…外務省ウェブサイト (<http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/pr/wakaru/topics/vol79/>)
- ・『フリードマンとセンの豊かさとはと貧困と開発の定義』…特定非営利活動法人開発教育協会『貧困と開発-豊かさへのエンパワメント』2008年の資料を基にNIED作成
- ・『フリードマンによる「豊かさ」の8つの条件』…特定非営利活動法人開発教育協会「貧困と開発-豊かさへのエンパワメント」2005年

※JICA…独立行政法人国際協力機構

※NIED…特定非営利活動法人 NIED・国際理解教育センター